

1 観察先及び調査事項

(1) 宮崎市（11月12日）

- オンライン委員会の開催について
- 議会DX化について
- 質問者席について

(2) 宮崎県（11月13日）

- 質問者席について

2 調査結果

(1) 宮崎市

人口：391,655人
世帯：203,466世帯
面積：643.57km²
(令和7年11月1日現在)

【市の概要】

宮崎市は九州南東部に位置する宮崎県の県庁所在地である。地形は北部から西部にかけて丘陵地が連なり、南部は鰐塚山系、双石山系の山地で占められる。

大正13年4月に市制施行後、幾度の編入合併を経て、産業、教育、文化、交通その他あらゆる面にわたって発展を遂げてきた。

その後、平成10年4月には政令指定都市に準ずる権限を持つ中核市に移行し、魅力あるまちづくりを進めている。

宮崎市では、人口減少に焦点を当て、喫緊に取り組むべき施策として、「力強い経済への挑戦」「自立し、支え合う社会づくり」「未来のまちづくり」の3つの新しい重点プロジェクトを定めて取組を推進するとともに、国際リゾート都市としても発展している。

・オンライン委員会の開催について

宮崎市議会においては、オンライン委員会の開催要件として「重大な感染症のまん延防止措置の観点」「災害等の発生等」に加え、「公務、疾病、育児、看護、介護、出産、配偶者の出産補助その他のやむを得ない事由」を対象としている。

当初は、開催要件を災害等の発生等に限定していたものの、その後、総務省より「新型コロナウイルス感染症対策等に係る地方公共団体における議会の開催方法に関するQ&A」において、オンラインによる方法での出席を可能とするかについては各団体において判断されるものであり、災害の発生や、育児・介護等のような事由がある場合に、各団体の判断で、オンラインによる方法での委員会への出席を可能とすることも差し支えないと考えられるとの方針が示されたことから、議会内の、議会活性化検討委員会において再協議がなされ、地方議会議員の成り手不足の解消や多様な人材の参画を図ることを目的として、令和5年12月、育児や看護、介護等を対象に追加した。

宮崎市では、これまで実際にオンライン委員会を行った事例はないが、南海トラフ地震の発生を見据え、突然のオンライン委員会の開催を想定した訓練を行った。今後、年に1、2回、定期的に訓練を行うことを検討しているとのことであった。

今後の課題として、実際に大規模災害が起った場合には、オンライン委員会に使用する機材が破損してしまうことが懸念されるため、様々な場合を想定した対応や対策を考えていく必要があるとのことであった。

・議会DX化について

宮崎市議会では「あなたの声でまちをつくる」や「あなたと議会をつなぐ」というスローガンのもと、「みやだん」というインターネットサイトを運営している。

この宮崎市議会DX「みやだん」は、投票率の低下や議員の成り手不足に加えて、新型コロナウイルスの感染拡大によって市民と対面で接することができない状況が発生し、議員活動が制限された中、市民と議会との距離を縮めるため、今までとは異なる手法で現状を打破しようとしたことが開発の契機となった。

令和3年12月に、議長をリーダーとしたプロジェクトチームを発足させ、政務活動として「みやだん」の実証実験を開始、市議会の公式事業となつたのは2年後の令和5年11月のことであった。

○主な内容

- ・市民からの相談受付

利用者は事前にメンバー登録をした上で、相談したい議員にホームページ

ジ上で相談内容を書き込むことができる。これにより、市民と議員間で双方のコミュニケーションが可能となっている。市民が相談の相手方となる議員を選び、直接相談できる機能は、地域の課題や要望を迅速に共有するのに効果的とのことであった。また、議会と市民の架け橋となる市民アンバサダーとの連携やアンケート機能を利用して議員が直接市民の意見を収集し政策立案に活用するなど、「みやだん」を使って市民意見を議会活動に反映させられるとのことである。

- ・情報発信による広報機能の充実

今年度、市民が気軽に議会情報を得られるツールとして「みやだんラジオ」を新たに導入した。定例会後に議長と委員長が定例会のポイントを振り返る対談などを発信している。また、議会報告会のライブ配信や議会紹介動画の視聴が可能となっており、議会活動を市民に分かりやすく伝えている。

- ・開かれた議会活動

議員のプロフィールや活動、得意な分野などを掲載し、見える化することで、議員に対する信頼や親近感を高めているとのことであった。

・質問者席について

現在の宮崎市庁舎は昭和38年12月に竣工したものであり、令和5年で築60年が経過した。

宮崎市議会では、初回の質問は演壇または質問者席で実施し、2回目以降の質問は質問者席で行うこととしている。また、答弁については、市長のみ登壇してを行い、その他の理事者は自席で起立し発言している。

平成26年度の議会活性化検討委員会において、平成27年3月定例会から議員定数が46人から40人へ削減されることに伴い、議場のレイアウトを変更して質問者席を設置することを決定、平成27年9月定例会より使用を開始した。質問者席は、一般質問及び質疑時のみ使用し、他の発言は演壇を使用することとした。また、発言場所について疑義が生じた場合はその都度協議を行うこととなった。

・所見

宮崎市議会では「オンライン委員会の開催について」「議会DX化について」

「質問者席について」のテーマで視察を行ったが、特に議会のDX化については、プラットフォームの活用により、議会活動をより開かれたものとし、市民と議会が協力して地域課題の解決に向けた取組を行うという市民参加型の議会運営を行っていた。議会と市民との接点を増やす、このような宮崎市議会の取組は非常に参考となるものであった。

また、他の調査事項についても、本市の議会運営委員会で検討会を設置し協議を続けている事項であり、宮崎市議会の視察で得られた知見は、今後、各検討会や議会運営委員会において議論を深める上で大変意義深いものであった。

(2) 宮崎県

人口：1,017,134人

世帯数：474,386世帯

面積：7,734.16km²

(令和7年10月1日現在)

【県の概要】

宮崎県は、九州の南東部に位置し、温暖な気候と、県土の75%を山地が占めるなど豊かな自然に恵まれている。また、天孫降臨伝説に代表される数々の神話に彩られている県である。昭和7年12月に日豊線が全線開通したことで経済が活性化し、近代化が進められてきた。日照時間が長いことから「日本のひなた宮崎」というキャッチフレーズを掲げている。

・質問者席について

宮崎県の議会棟は昭和37年10月に建設され、それから約60年が経過しているが、質問者席の整備は3回にわけて行われてきた。

1回目は、平成19年6月、一問一答方式の導入に伴い、最前列で空席だった議席を質問者席として活用することとした。

2回目は、平成23年5月、議員定数が45名から39名に削減されたことに伴い、議席の中央最前列を撤去し、その中央に質問者席を設置した。

3回目は、平成23年12月、質問者席の机と椅子の間隔が狭いとの意見があったことから、椅子を稼働式に変更し、現在の質問者席となった。

質問方法は、一問一答方式、分割方式、一括方式の中から選択できるが、多く

の議員が一問一答方式を選択している。1回目の発言は全て登壇して行うこととし、2回目以降は質問者席または自席からの質問となる。また、演壇からの質問に対しては、演壇から答弁を行い、質問者席または自席からの質問に対しては、自席から答弁を行っている。

・所見

宮崎県では、一問一答方式の導入に伴い質問者席を整備した。本市においても、質問方式等検討会や議会運営委員会において、一問一答の質問方式について協議を進めた結果、今年度、質問者席を設置する方向性が決まったところである。これから質問者席の大きさ、設置位置、必要となる設備など、詳細を詰めていくに当たって、様々な自治体の状況を把握することが大切であり、実際に質問者席を使用している自治体の議場を見ることができたことは有意義であった。

宮崎市議会（11月12日）



宮崎県議会（11月13日）

